

面接調査結果

調査内容

1 調査目的

結婚や家族形成、妊娠・出産と子育て、家庭と仕事の両立等に関して、性別や年齢を問わず幅広い年代に対面調査を実施した。結婚や家族形成を促進する(または阻害する)要因や、家庭での夫婦の家事分担のありかた等についての考えを述べてもらい、対象者らが日頃からどのような問題認識をもっているか、またどのような価値観を抱いているかを探った。

2 調査結果

代表的な回答は以下のとおり。

(1)結婚・家族形成についての意識

①促進要因

結婚・家族形成の促進要因	20代	<ul style="list-style-type: none">授かり婚(子どもができたからするしかない)。妊娠したから。反対されると思ったが親が喜んでくれた。10年付きあって。経済力。
	30代	<ul style="list-style-type: none">趣味が一緒だった。お酒が好き。一緒にいて楽しい。老後を考えると。卒業(大学)を機に結婚した。家庭を持ちたい、子どもがほしいと思っていた。5年付き合った。30歳までには身を固めたいと思っていた。あとはタイミング、価値観が大事。「この人じゃなかったから(もっと収入いい人とか)」って思うことは正直あるけど、この人じゃなかったら、この子はうまれてなかったんだなあって思う。結果、自分にとってこの人が一番だったんだと思う。結婚したかった。早く子どもがほしい。妻が年上なので。子どもがいると仕事を頑張ろうと思う。守るものができ、責任を感じる。
	40代	<ul style="list-style-type: none">相性、タイミング(歳)。早く子どもをうみたかった。19歳から付き合っていた。
	50代	<ul style="list-style-type: none">この人となら50年いられると思った(タイミング)。

2.調査結果

(1)結婚・家族形成についての意識

②阻害要因

結婚・家族形成の阻害要因	20代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夫が長男で後継ぎしなければいけない。仙台を離れたくない。 ・ 生活が変わる。 ・ 最初はスムーズ。だんだん不満が。 ・ 式場の手配。誰を呼ぶか、など。
	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嫁、姑。夫の家庭との付き合いが大切。 ・ お金。好きなことができない。 ・ 転勤族。自分はいいが、子どもがかわいそう。 ・ 夫の家族とのトラブル。育児を知っているからこそ、アドバイスされる。でも、昔と今はちがう。合わせないと、話を聞いていないと言われる。 ・ 自分の時間がない。自分の思うようにはいかない。家族が熱を出したり・・・。 ・ 式を挙げる時の経済的な面、年齢。 ・ 価値観の違い。夫自身のことではなくて家族観とか。 ・ 若いうちに遊んでおくべき。結婚すると、実際時間がなくなる。
	40代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場だったので、社内でバレないように。 ・ 親戚関係。 ・ 仕事、趣味を優先してしまう。 ・ 夫がぐだぐだしていた。
	60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の反対があった。

2.調査結果

(2) 妊娠・出産、子育てについての意識

①肯定的要因

妊娠・出産、子育ての肯定的要因	20代	<ul style="list-style-type: none"> • 旅行に行きたい(ペアルック)。 • 子どもの成長が見られて良い(生後8ヶ月)。一日一日できることが増えていくことが楽しみ。 • かわいい、癒し。 • 両親が近くにいたので良かった。 • 育休のとりやすい会社ではあった。
	30代	<ul style="list-style-type: none"> • 子ども4歳。女の子だから一緒にモノを選ぶのが楽しい。 • 医療費がタダだからありがたい。 • 子どもに興味がなかった。子どもが出来てから他人の子どもがかわいいと思えた。 • 世の中の見方が変わる。 • 行動範囲が広がる。子どもによってつながりが増える。 • 子どもは3人(8ヶ月、2歳、6歳)。それぞれ個性が違っておもしろい。家庭が明るくなる、夫との会話が子どもの話ばかりになるがそれが楽しい。
	40代	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の子どもだからかわいい。子育てしたくなる。 • 将来2人くらい子どもがほしい。一人親でも育てられる環境。 • 4人子どもがいる。仲は悪いけど楽しい。いざというときは助け合う。あきない。
	60代	<ul style="list-style-type: none"> • 親のありがたみがわかった。

2.調査結果

(2) 妊娠・出産、子育てについての意識

②否定的要因 -1-

妊娠・出産、子育ての否定的要因	20代	<ul style="list-style-type: none">• 育休をもらっているが少ないから不安。育休は申し訳ない。• 2人の子どもを連れて歩くのが大変。幼稚園、保育園が見つからない。周りへの迷惑を気にしてしまう。• 遊ばせるところが少ない。雨の日が大変。もっと補助がほしい。2人目はほしいけどまだ大変、お金もかかる。• 子どもの体調が悪くなったときに不安。何の病気か相談できない。お医者さんの合う合わないがある。評判が知りたい。• 坂が多く、車がないと不便。病院が歩いていけない。
-----------------	-----	--

2.調査結果

(2) 妊娠・出産、子育てについての意識

②否定的要因 -2-

妊娠・出産、子育ての否定的要因	30代	<ul style="list-style-type: none"> • 思春期が大変。経済的な不安もある。 • 子ども(2歳)、妊娠中。不妊への理解が必要。すぐに子どもができると思ったらできなかった。 • 子ども(6歳、5歳、2歳)、自分の時間がない。 • 夫が転勤族で出張が多いので一人で子どもを見るのが不安。子どもの転校が心配。 • 働きたいが子どもが心配。職場に育児施設が欲しい。 • 病気のときなど、一時預かりを気軽に使えるようにしてほしい。 • 本当は働きながら子育てをしたかった。保育所が空いてない。親も近くにいない。会社の人に迷惑。 • 保育園・幼稚園では、ご飯を食べないとか、先生や友達との関わり方(トラブルなど)が見えるが、小学校はそれが分からないから大変。子どもが安全にあそべる場が少ない。急な用事で子どもを預けられるサービスが少ない。お金がかかる。相談できるところがほしい。相談できる場所は平日の日中、月1回とかしかない。 • 実家が遠い。夫が仕事、祖父母を頼れない時に来てくれたり預けられたりするサービスが少ない。登録しないといけない。登録場所が遠い。病気した時仕事をしていると大変。産後のフォローがほしかった。里帰りしなかった。制度があっても登録とか必要だし、まず知らなかった。夫は仕事。「買い物してくれる」だけでも楽になる。子どものフォローはあるのに、親に対するものが少ない。行けばあるけど、わざわざいけない。だったら1人でなんとか。 • 自分の時間がなくなる。児童館など子どもを預かってくれるところが少ない。 • 第2子できたときに会社にやめさせられた。夫の子育て、出産に対する理解不足。男性の働き方の問題が良くなるとどうにもならない。 • 知恵がついて口ごたえされる時にイラッとする。1人目は大変だった。2人目からは余裕がうまれた。サービスを知らなかった。知っていれば利用した。 • 医療費が市によって違うので統一してほしい。 • 遊ぶ施設が少ない。室内で無料で遊ぶところがほしい。他県は無料。宮城はお金がかかることが多い。
-----------------	-----	---

2.調査結果

(2) 妊娠・出産、子育てについての意識

②否定的要因 -3-

妊娠・出産、子育ての否定的要因	40代	<ul style="list-style-type: none">働いているので自分の時間がとれない、休めない。体調を崩しがち。保育所、幼稚園が少ない。仙台市立の幼稚園が少ない。私立は料金が高い。今更手当をもらえても遅い。今4人とか子どもいる人をもっと大事にしてほしい。「100万円あげるから生んで」ではなく、育てている人に手当を。
	50代	<ul style="list-style-type: none">共働き。お迎えなどが少し大変。
	60代	<ul style="list-style-type: none">昔は、親は親、子は子だった。子は放っておく。だが老後の不安ある。息子に負担はかけられない。しかし夫婦だけでは、という不安。
	70代	<ul style="list-style-type: none">ちゃんと立派な大人になってくれるか心配。

2.調査結果

(3) 結婚と仕事についての意識

①結婚と仕事のバランス

結婚と仕事のバランス	20代	<ul style="list-style-type: none"> 掃除、ゴミ捨てはしている。子育ても家事の一部。 早く子どもを生んで半年で仕事に復帰したい。給料も少ないし、フルで働きたい。しかし周りの友達には子どもを大切にしろと言われる。 子どもが1歳すぎしてから仕事はじめた。保育園決めるのが大変。 子どもが大きくなったら働きたい。働きたくなったら保育園とか探す。 子育てを優先し、家の中にずっといると神経質になっちゃう。仕事がストレス発散になる。
	30代	<ul style="list-style-type: none"> 夜勤が少し大変。子どもが学校に行っている間に寝るがその間何もできないので両立が大変。 子どもが大きくなったら働きたい。夫の転勤が心配。家のこと優先したい(パートとかで働きたい)。 収入が安定していたから復帰したかった。 もし仕事を始めても今とあまり変わらない。主人には家事を求めない(できないだろう)。 主婦も「仕事」している。仕事をして帰ってきて休むのではなく分担すべき。 仕事をしたくても、預けられなければ仕事ができない。保育士に戻りたいが給料が少ない。 夫の協力があって仕事がつづけられる。仕事を休んでくれたり。 仕事がしたくてもできない(負担が大きい)。 仕事7:家事3。妻にも仕事をしてもらいたい。
	40代	<ul style="list-style-type: none"> 仕事5:家事5。 仕事はやりたいが、近くに両親(頼れる人)がいない。 お金がなかったら仕事をするが、子どもを優先したい。
	50代	<ul style="list-style-type: none"> どちらも大切。仕事は責任がある。子育ては時間ではなくて愛情をどれだけ注ぐことができるか。
	70代	<ul style="list-style-type: none"> 妻から転勤するなど言われた。人生で1度も転勤したことはない。手伝いはしなかったが、いてくれるだけで安心と言われた。

2.調査結果

(3) 結婚と仕事についての意識

②家庭での夫婦の家事分担 -1-

家庭での夫婦の家事分担	20代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人は日曜日が休みなので、分担して子育てはしたい。 ・ 夫1:妻9。夫の帰りが遅い。言えばやってくれる。 ・ 夫が何もしてくれない。家に月に一度しか帰ってこないため妻が全てやっている。 ・ 決めてはいないけど分担はしている。平日とか自分が疲れている時は家事をしてほしい。 ・ 夫は家事自体はしなくてもいいが思いやりがほしい。「当たり前」と思わないことが求められる。 ・ 休みの日は助けてもらっている。決まった休みだと予定が入れやすい。
	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家事は自分。家事をやっているとき夫が子どもをみってくれる。自分が働いてないから文句はいえない。 ・ 夫がいる時はやってもらうこともある。今は夫0:妻10。 ・ メインは妻。役割分担(夫:仕事、妻:家事)。 ・ 夫にはもう何も求めていない。あきらめている。 ・ 夫にはもっと家庭にいてほしい。誕生日やクリスマスは盛大に祝ってくれるが教育上どうなのかなと思う。 ・ 夫がやってくれない。夫の仕事7.8h、私のパート労働6hであまり変わらないのに家のことが私(妻):夫=9:1なのはおかしい。 ・ 分担はしていない(夫はあまり何もしない)。主婦だからするのが当然。 ・ 分担はしてはいない。夫は「女がするものだ」と思っている。2人目が産まれてから協力するようになった。男性の収入を増やしてほしい。 ・ 夫3:妻7。頼めばやってくれるので不満はあまりない。 ・ きっちり分担している。夫が積極的にしてくれる。 ・ 休日は夫がやってくれることが多い。できるときにやる、気づいたらやる。 ・ 家事は協力している。妻がどう思っているかわからないが自分的には協力しているつもり。理想は妻8:夫2(妻が専業主婦だから)。

2.調査結果

(3) 結婚と仕事についての意識

②家庭での夫婦の家事分担 -2-

家庭での夫婦の家事分担	40代	<ul style="list-style-type: none">・ 特別分担はしなかった。思いやりが大事。・ 理想は夫4:妻6。できることややれることをやれば良い。・ 夫は手伝ってくれるが雑だ。もっと丁寧ならいい。
	50代	<ul style="list-style-type: none">・ 気づいた方がやる、できる方がやる、自分ができることをやる。
	60代	<ul style="list-style-type: none">・ 洗濯はしてくれる、しかしボタンをおしてくれるだけ。同じメニューだが毎朝を夫が作ってくれる。良い関係である。

3.面接調査の小括

(1) 結婚・家族形成についての意識

結婚・家族形成の促進要因は、「結婚したかった」のように結婚それ自体に価値を見出している場合もあれば、「授かり婚」や「卒業を機に」「タイミング」など、結婚を後押しする契機を挙げる回答、「趣味が一緒だった」や「相性」など夫婦関係に言及する回答もある。

結婚・家族形成の阻害要因は、「嫁、姑」「親戚関係」など、結婚後の新しい家族関係の形成にかかわる回答や、「お金」「経済的な面」といった回答、「自分の時間がない」という生活時間の変化にかかわる回答、「転勤族」や「夫が長男で後継ぎしなければいけない。仙台を離れたくない」というような地理的移動にかかわる回答があげられている。

(2) 妊娠・出産・子育てについての意識

妊娠・出産・子育ての肯定的要因は、「かわいい」「成長がみれて良い」「個性が違っておもしろい」など、子育てを経験して感じる喜びを挙げる回答や、「世の中の見方が変わる」「行動範囲が広がる」など、世界観の広がりを挙げる回答が見られる。

妊娠・出産・子育ての否定的要因は多岐にわたるが、「職場に育児施設が欲しい」「本当は働きながら子育てをしたかった」「第2子ができたときに会社にやめさせられた」など、仕事との両立が難しいことを指摘する回答や、「保育園、幼稚園が少ない」「病気のときなど、一時預かりを気軽に使えるようにしてほしい」「急な用事で子どもを預けられるサービスが少ない」など、保育サービスの不足を指摘する回答、また、「遊ばせるところが少ない」「室内で無料で遊ぶところがほしい」といった回答も見られた。「親も近くにいない」「一人で子どもを見るのが不安」「2人の子どもを連れて歩くのが大変」「自分の時間がない」など、子育てを母がひとりで抱えているように見受けられるケースもある。

(3) 結婚と仕事についての意識

結婚と仕事のバランスは、「子育ても家事の一部」や「妻には仕事をしてもらいたい」と家事への協力を惜しまない態度を見せる男性回答者や、「夫の協力があって仕事がつづけられる」「仕事がストレス発散になる」「子どもが大きくなったら働きたい」など、バランスをうまく保とうとしている女性回答者がいる一方で、「主人には家事を求めない」「仕事がしたくてもできない(負担が大きい)」「仕事はやりたいが、近くに両親がいない」「仕事したくても預けられなければ仕事できない」など、仕事と家事(育児)の両立に困難をきたしている回答も見られる。

家庭での夫婦の家事分担は、家庭の事情によりさまざまである。「夫:仕事、妻:家事」という役割分業もあれば、家事を「きちり分担している」というケースもある。特に分担はせず、「できるときにやる、気づいたらやる」や「夫にはもう何も求めていない」という場合もある。「頼めばやってくれるので不満はあまりない」という回答もあれば「妻はどう思っているかわからないが自分的には協力しているつもり」「夫は手伝ってくれるが雑だ」や「しかし(洗濯機の)ボタンをおしてくれるだけ」というような回答もある。それぞれの家庭における夫婦関係のユニークな側面がみてとれる。

3.面接調査の小括

全体を見渡してみると、それぞれの項目の関連性が見えてくる。まず結婚・家族形成の促進要因は、「なぜ結婚したのか」の理由にあたる内容であるが、それは結婚後に振り返ってみてはじめて「そのように見えるようなもの」であり、各人にとっての「結婚している」という事実を意味づけるものとなっている。一方、結婚を阻害しているものとしては、人間関係、経済的条件、地理的条件における変化をいかに受け入れられるかが大きな位置を占めているようである。妊娠・出産・子育てについては、仕事と家庭の両立や保育サービスの不足など、さまざまな問題に制約されながらも、子どもを持つことに幸せを見出そうとする姿が明らかになった。そのことは家庭と仕事のバランス、家事分担のありかたに対する考えかたにも大きく影響しており、たとえば家事負担が夫と妻のどちらかに偏るようなことがあったとしてもそれなりにバランスをとって生活が維持されているように見受けられる。このように、結婚や出産、子育ては個々人の問題ではなく、親世代や子世代を含む家族、勤務先、友人、そしてそれらのすべてを取り巻く生活環境といったあらゆる社会的条件と連動する問題であるということが、本調査によりあらためて浮き彫りとなった。

(菅原真枝)